

# 動植物を通じた地域交流をめざして

環境緑化科課題研究ビオトープ班

有田 北村 清水 福西 吉田 脇谷

## 1. はじめに

内閣（2004）の「科学技術社会に関する世論調査」で「科学技術に関心がある」と答えた人の割合が若いほど下がっていることから、理科離れがすすんでいる。また総理府（1993）が実施した「青少年と家庭に関する世論調査」によれば「最近の子どもは生活体験や自然体験などの体験」が不足しているという見方について、7割近くが肯定であったことから、自然・生物を好まない子供が増えていることがわかる。私達は、園芸高校に生息する動植物を通して人と生物が共存する大切さを知ってもらうために研究を開始した。

## 2. 学校説明会参加者対象の昆虫採集イベント

材料：パイナップル、麦焼酎、ストッキング、砂糖、ケース

準備：①ストッキングにパイナップル、砂糖、麦焼酎を浸し、

それをケースに入れて日光の当たる場所で2日間発酵させた。

②前日に、実習庭園内のカブトムシが寄る樹木数本にトラップを枝に括り付けた。（図1、2）

工程：①学校見学に来た中学生と一緒に実習庭園を周った。

②トラップについていたカブトムシを観察し、生態について解説した。（図3、4）

結果：参加者は5名2組の方が参加してくれた。当日トラップにはカブトムシやシロテンハナムグリなど多くの甲虫類が飛来していた。また、実際にカブトムシを観察して「メスにはツノが無いんだ」と関心の声も聞くことが出来た。



図1 トラップ作り



図2 トラップ設置



図3 イベントの様子



図4 飛来したカブトムシ

## 3. 学校説明会参加者対象の紙芝居イベント

材料：画用紙、ペン、カブトムシの幼虫、パック

準備：①カブトムシについて生態、生息環境種類についてまとめ、紙芝居にした。（図5、6、7）

②養殖しているカブトムシの幼虫を提供するために袋に詰めた。

③カブトムシの飼育方法を記述したビラを作成した。

工程：①学校見学に来た中学生に紙芝居を披露した。（図8）

②カブトムシの幼虫を提供し、飼育方法についてのビラをくばった。

結果：参加者は15名の方が参加してくれた。呼びかけを行ったこともあり、夏の昆虫採集イベントよりも多く参加してくれた。また、カブトムシの幼虫を実際に家で飼育するための多くの人が持ち帰ってくれた。



図5 資料集め



図6 紙芝居作り



図7 紙芝居の1ページ



図8 イベントの様子

## 4. 考察

結果から考えられることは、昆虫に抵抗を感じている人の、理解を深めるには、実際の昆虫と触れ合うことが重要だと考える。昆虫との接し方や知識の広め方などの工夫が必要だと感じた。また、実施前と実施後でアンケートを行うことが次回への課題である。今後も昆虫に関する知識を広め、身近に昆虫が存在することに気付かせる活動を継続的に行い、人と生物が共存する社会をめざしたい。